

第1回 新みやしろ郷土かるた制作委員会 議事録	
日時	平成28年5月24日(火) 18時~20時30分
会場	宮代町役場 202会議室
出席	委員：田中委員長、関根副委員長、岡本、青木、青柳、松本、石川 事務局：中村教育長、佐藤室長、田中、小林 (敬称略・順不同)
欠席	栗本、浅倉 (敬称略・順不同)
傍聴	なし

1 次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 任命書交付
- (4) 自己紹介
- (5) 新かるたの制作趣旨・概要について
- (6) 委員長及び副委員長選出
- (7) 審議
 - ① 読み句募集要項について
 - ② 題材例・題材例解説書について
 - ③ 委員会スケジュールについて
- (8) その他
- (9) 閉会

2 議事

(5) 新かるたの制作趣旨・概要について

- 資料に沿って事務局から説明

(6) 委員長及び副委員長選出

- 委員長 田中卓也氏、副委員長 関根雅治氏に決定

(7) 審議

① 読み句募集要項について

- 資料に沿って事務局から説明

決定事項

- 新かるた裏面への掲載事項
 - 原案どおり決定
 - 作者の所属(学校名または居住地区または在勤)と氏名を表示する(氏名にはふりがなを付す)
- 読み句募集要項について
 - 原案どおり決定
- 募集告知、学校への働きかけについて
 - 児童生徒にわかりやすい形で(応募したくなるような)チラシ、ポスターなどを制作する
 - 制作委員、事務局が協力して、児童生徒への呼び掛け、先生からの後押しをお願い等を行う(詳細は別途調整)
 - 作品投票用ボックスの設置など、募集方法の工夫は引き続き事務局で検討する
- 制作物の名称は、(仮)を付して「(仮)新みやしろ郷土かるた」とする。

主な意見等

- 委員 児童生徒の応募は宿題として設定するか、それとも任意提出か。学校に協力してもらい、宿題にしてもらわないと、作品が集まりにくいのではないかと。PTAでも、三行詩という取り組みを毎年行っているが、学校に宿題化してもらい、作品数を確保している。それでも、100%の提出にはならない。そういう状態なので、宿題でなければ、作品はほとんど集まってこないのではないかと。
- 委員 子供たちも、宿題になっていないと、なかなかやらないように思う。
- 委員 非行防止の標語の募集を行う場合は、全体で600作品ほど集まる。それは、先生の後押しをしてもらっている部分が多い。あとは、参加賞でやる気を喚起するのも一つの手だろう。また、募集予告もやれると良い。たとえば、かるた大会のチラシを活用できないか。
- 事務局 かるた大会のチラシは、既に配布済みなので、これを活用することは難しい。チラシでは、現行かるたでの最後の大会である旨は告知している。
- 委員 作品投票用のボックスを、各学校に設置してみてはどうか。子供たちが思いついたときに気軽に応募できるようにしておく。
- 委員 募集要項も、子供たちの気持ちを惹きつけるような内容、デザインにすると良い。また、ポスターで情報を目立たせることも効果があると思う。それから、学校にお願いに行くのであれば、事務局だけでなく、制作委員も同伴することで、学校の受け取り方が違ってくる。
- 委員 制作委員会も協力して、学校に対して働きかけを行っていききたい。先生方への働きかけのほか、制作委員会が自ら、児童生徒に対してやる気を起こしてもらいように働きかけることも可能だと思う。
- 委員 教育長から、校長先生にお願いすれば、学校も力を入れてくれると思う。
- 委員 この制作委員会に、学校の先生も入ってもらいと良い。それによって、先生からの働きかけも可能になるのでは。
- 事務局 学校の先生には、仕事として参加していただく場合、会議の時刻設定が夜間となり、参加が難しい状況。校長先生にも事前に相談したが実現できず、作品選定の過程で、別途ご協力いただくこととした。
- 委員 作品の集計は、PTAに協力してもらい、これも一つの方法だと思う。全部のPTAが協力できるかどうかはわからないが、また、募集期限は、終業式直前だと、忘れてしまう子どもが必ずいるので、少し前に設定した方が良い。
- 事務局 再募集を避けるため、すべての音の作品を集めたいと考えから、各学校に、使用する音の指定をする予定。前は、応募が全くなかった音もいくつかあった。今回は、できるだけそういった事態を避けるため、音を指定する。また、作品がある程度、出揃ってきた時点、目安として7月上旬頃に、作品数が少ない音のテコ入れを、学校にも協力してもらい、実施することも考えている。
- 委員 募集スタート時点で、参考程度に、募集が少ないことが予想される音を子供たちに知らせておくことも考えられるのでは。
- 事務局 あまり誘導しすぎると、その音に作品が集中し、逆効果になる恐れもあるため、そのバランスは慎重に考えなければいけない。

② 題材例・題材例解説書について

- 資料について過不足や修正の有無を確認

決定事項

- 題材例案・題材例解説書について

→一部原案を修正、題材を追加

【追加】神明神社（山崎宿の鎮守）、辰新田浅間神社（文化財案内板あり）、須賀小学校のどんぐりピアノ（山崎山、島村盛助とともに道徳教材になっている）、葡萄の薫る小径（和戸本郷の町内の巨峰生産発祥の地付近にある）、小島九右衛門（和戸教会の創始者）、須賀小学校の楓の木、ほっつけ（笠原沼新田の説明に含まれるが、名称として独立（目立つように）する）巖谷小波（須賀小学校校歌の作詞者、宮代町出身ではないが、著名な児童文学者による作詞であることは、題材例の中で紹介する価値がある）

→今回の修正を含め内容を更に精査し、6月上旬（募集開始）までに完成させる。

主な意見等

- 委員 子供たちの郷土教材という趣旨を重視すべき。なんでも良い、というものではないと思う。
- 委員 既に実施されていない行事、例えば東条原の獅子舞などを掲載する必要があるか。
- 事務局 東条原の獅子舞については、町指定文化財であり、掲載しても良いのではないかと考えた。また、ここで掲載することにより、いずれ復活することを期待していく、という面もあると思う。
- 委員 小中学校の掲載方法と内容を、もっと詳しくても良いのではないか。
- 事務局 小学校は、それぞれに素材になるネタがあるが、中学校は、題材として膨らませにくい。さらに、学校再編の検討が進んでいる状況もあり、学校の掲載については慎重に考えなければいけない。

③ 委員会スケジュールについて

- 資料に沿って事務局から説明
- 第2回会議の議題の概要について事務局から説明

決定事項

- 第3回会議日程まで決定

→第2回会議：6月14日（火）午後6時～、第3回会議：7月12日（火）午後6時～

→みやしろ郷土かるた大会（7月3日開催）については、各自可能な範囲で見学（任意）